

キャピタル・アイ特別企画：財務担当に聞く

福井県、「恐竜王国」を債券で発信

福井県は 2009 年度から市場公募地方債を発行しており、今年度は総額 594 億円を予定している。このうち、県立大学の恐竜学部棟建設に資金使途を絞ったリテール債・「恐竜学部応援ボンド」を 8 月に発行して話題となった。直近では、3 度目となるグリーンボンド (GB) を 10 月 17 日に起債している。総務部財政課・川上進太課長と同部・岸本鉄也副部長 (大学私学) に県の財政状況などについて、福井県立大学経営企画部・海道ひかり部長 (勝山キャンパス開設準備) に恐竜学部の概要について聞いた。

■幸福度ナンバー1

--福井県の概要について

川上課長：非常にコンパクトな県で、人口約 73 万 8000 人で全国 43 位。県内総生産は 3 兆 6815 億円で 41 位だが、県民 1 人当たりの所得は 326 万円で 7 位と非常に高水準で豊かな県と思っている。

観光客はコロナ禍で大きく落ち込んだが、北陸新幹線が昨年 3 月に開業し、ぐっと伸びてきている。

県立恐竜博物館や東尋坊、嶺南 (県南西部) に行くと水島や水月湖・年縞博物館といった観光地に恵まれており、これから外国人含めて観光を伸ばしていきたい。

--インバウンド対策について

川上課長：宿泊客数がかなり少なく、全国でも下位で課題となっている。県ではインバウンド交流課という組織を作って誘致に力を入れている。

北陸新幹線が敦賀まで開業した。福井から東京までこれまでは、米原に出て東海道新幹線に乗って大体 3 時間半ぐらいかかっていたが、今は最速で 2 時間 51 分と非常に時間距離が短くなった。関東圏や長野からも観光客が来ている。県外からの来訪者は開業 1 年間で特に関東圏の伸びが顕著で、129.3%となっている。様々なメディアに取り上げられたこともあり、全体的に観光客数が伸びている。これに伴って投資が行われており、福井駅、敦賀駅を中心にいろいろな店舗ができ、非常に活性化しているし、地価も上昇している。民間主導で、福井駅の南の歩いていける距離に福井アリーナを整備するというプロジェクトも進行している。



福井県
総務部財政課 課長 川上 進太 氏 (左)
同部 副部長 (大学私学) 岸本 鉄也 氏 (右)

■出生率全国 2 位

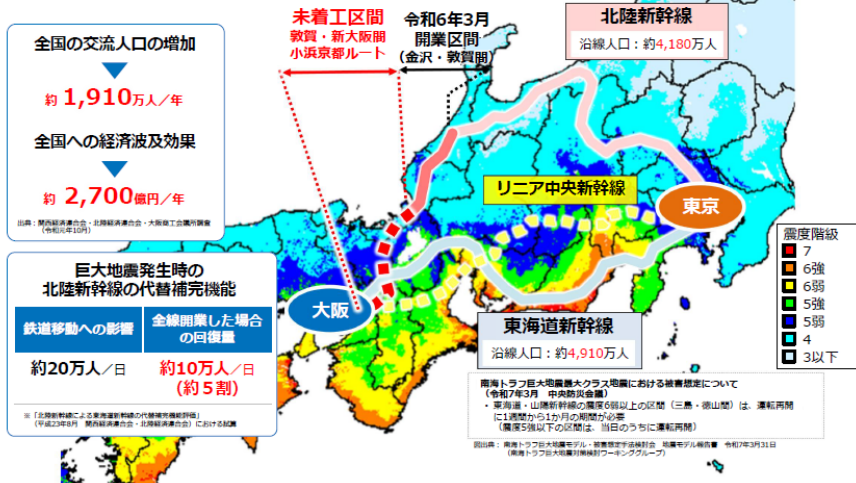
福井県の魅力として、幸福度日本 1 が挙げられる。幸福度ランキング（日本総合研究所）において 6 回連続で総合 1 位を獲得した。特に教育分野（1 位）や仕事分野（4 位）で高い順位になっている。そんななかで、子育て支援にもかなり力を入れており、日本 1 幸福な子育て県ということで、「ふく育県」の取り組みを行っている。例えば結婚の支援もかなり手厚くやっているし、不妊治療費の手当てといったことも日本 1 の水準で行っている。育休は男性も含めて奨励金を出し、全国でかなり進んでいる方かと思う。国が全部無償化しようという動きがあるが、それに先んじて高校の授業料の無償化もかなり拡充している。こうした取り組みもあって、出生率全国 2 位と極めて高い水準を維持できている。

--それらの施策によって福井に移住する人がいるのではないかと

川上課長：新しく居住する人を「新ふくい人」と呼んでいるが、毎年かなり伸びていて、2024 年度には 1367 人となっている。これは県や市町村の移住支援を受けた人の集計。支援を全く受けていない移住者は把握していないが、実際は増えているのではないかと。北陸新幹線開業の効果もあると思う。

北陸新幹線敦賀以西（小浜・京都ルート）の整備促進 ～全線開業の意義～

- 北陸新幹線が大阪まで開業した場合、全国の交流人口は約1,910万人の増加を見込んでいます
- 南海トラフ地震等大規模災害時には、東京・大阪間を結ぶ東海道新幹線の代替機能を果たします



■大阪へ、名古屋へ

--交通面の整備について

川上課長：北陸新幹線は大阪までつなぐことが目標になっていて、福井県としては 1 日も早い認可着工を目指している。県の南の小浜市付近を通って京都を經由し大阪に行く。例えば南海トラフ地震が起きて東海道新幹線が不通になってしまったときの代替輸送手段を確保するなど、そうした観点からも小浜-京都ルートが優れている。

高速道路の整備では、中部縦貫自動車道という岐阜の方に抜けて長野まで至る道路がある。これはもうほとんどできていて最後まであと少し。2029 年春の開通を予定している。東海北陸自動車道に接続して名古屋方面へ行くのにも便利になる。嶺南では、舞鶴若狭自動車道の 4 車線化の早期完成を国に求めているところだ。

「ふく育県」の取り組み

結婚	結婚生活への経済的不安 平均世帯所得 29歳以下 339.5万円 30~39歳 608.5万円	国の結婚生活支援金 最大60万円 認知度53% (R5)	県の上乗せ支援 最大40万円 認知度61% (R6)	最大100万円!	女性の平均初婚年齢 29.0歳 → 28.9歳 R2全国10位 R6全国1位
出産	出産を希望 高額な不妊治療費 約2万~100万円	1回あたりの自己負担額 最大6万円	女性の年齢区分別出生数 30~34歳 R5 1,584人 R6 1,608人 (+24人) 40~49歳 R5 242人 R6 249人 (+7人)		R6 合計特殊出生率 1.46 (全国2位)
子育て	子育てへの経済的不安 0歳~22歳子育て費用 (教育費と養育費の合計) 約2,900万円 (私立大学まで)	最大600万円の男性育休促進企業奨励金、第2子以降保育料無償化、中学生までの医療費無償化、高校授業料無償化等	民間企業男性育休 R5取得率 31.4% → R6取得率 44.9% 過去最高 医療費助成 県と市町で高校3年生まで無償化 ※1町を除く		ふく育さん

取組の改善・充実 (R7~)

- 安心の子育て環境
 - ・訪問型シッターサービス 1時間500円から（ふく育さんなど）
- ひとり親家庭等への支援
 - ・「ふく育さん」「ふく育タクシー」の利用料48,000円/世帯を支援
- 子育てのワクワク実感
 - ・全天候型遊び場を全市町に拡大
 - ・福井県児童科学館の新たな魅力づくり



ふく育さん

■大きな原発収入

--財政運営について

川上課長：今年度当初予算の歳入はトータル 5017 億円で、そのうち県債は 478 億円。歳出決算の推移を見るとコロナ禍では伸びていたのが、だんだん落ち着いてきている。コロナ禍の影響が最も出たのが 2021 年度あたりで、国から交付金が出て、様々な対策事業などによって歳出が増えた。全国的に同じような傾向だったと思う。歳入決算も同じような形になっている。

福井県は原子力発電所が日本で 1 番多く、原発関係の収入がある。税収で 1 つは電力事業者の活動に伴って法人税が入る。もう 1 つは核燃料税という県独自の法定外税と呼ばれるもので、条例を定めて徴収している税金。これらを合わせて 2024 年度は 280 億円ぐらいで、県税のうち原発関連税収は 2 割弱を占める。国からは電源 3 法交付金を受けている。これがおよそ年間 100 億円強あって貴重な財源となっている。

--財政指標や県債残高について

川上課長：実質赤字比率は黒字。実質公債費比率は 11.6%と全国で 30 位。将来負担比率は 146.6%で全国 16 位に位置している。地方債の残高は臨時財政対策債を含めると緩やかに減ってきている。臨財債を除いた部分では緩やかに増えていて、公共事業や新幹線整備などもあって今後も少し増えていく見込み。

減債基金は、国のルール以上にかなり前倒しで積み立てることができている。その点から言うと、かなり健全財政を維持できていると思う。財政調整基金は昨年度 167 億円ということで目標値を上回ってしっかりと積み立てている。

--行財政改革アクションプランについて

川上課長：2024 年度からの 5 年計画だ。財政に関する目標としては大きく 3 つあり、1 つは財政調整基金の残高を 130 億円以上。2 つ目は臨財債を除いた県債残高をこれまでの最大値である 6684 億円を超えない水準とする。3 つ目は財政健全化指標で将来負担比率を全国中位の水準に維持する。

--市場公募債について

川上課長：今年度は、個別債、共同債合わせておよそ 600 億円を発行する予定だ。実需に合わせて短い年限が増えている。7 月には 5 年債・50 億円、10 年債・150 億円、20 年債・50 億円をフレックス枠から発行した。同枠から直近では GB が条件決定した。

原子力発電に関する福井県の現状 (令和7年10月1日現在)

- 現在、美浜3号機、高浜2・3号機、大飯3・4号機が運転中
- 高浜1・4号機、敦賀2号機については定期検査中



GB は、昨年度は 100 億円だったが、今年度は 50 億円で、しっかりと 5 年債でプレミアムが付いた形で発行できた。GB の充当予定事業は北陸新幹線の整備や公共事業の省エネ化などとなっている。

・今年度の福井県債（個別、主幹事は全て SMBC 日興/野村/三菱 UFJ モルガン・スタンレー）

回号	年限	発行額	償還日	表面利率	対国債	対カーブ	方式
7 年度 6(GB)	5	50	30/10/30	1.286	9.5	9	主幹事
7 年度 5	10	100	35/9/26	1.733	14	12	交渉
7 年度 4(恐竜)	5	14	30/8/28	1.164	14	-	主幹事
7 年度 3	20	50	45/7/25	2.543	3.5	3	主幹事
7 年度 2	10	150	35/7/18	1.627	17	16	主幹事
7 年度 1	5	50	30/7/18	1.164	15.5	15	主幹事

発行額：億円/表面利率：%/対国債・カーブ：+bp

--GB の発行意義について。プレミアムがないとコスト的に意味はないと考えるか

川上課長：福井県の SDGs に関する取り組みを投資家に PR ができるという観点では、プレミアムの有無に関わらずに発行することは一定の意義があると思う。他方で、手続きが煩雑だったり大変な部分もあるので、そのバランスを見ながら決めている。昨年度は総額 100 億円で、今年度は 50 億だった。この先もだいたい 50 億円から 100 億円というイメージになる。来年度以降は未定ではあるが、大体そのぐらいの規模感でできれば良いと思っている。昨年度に 100 億円で、その前の年度は 50 億だった。かなり増やしたので今年度は 50 億円に戻した。今後プレミアムがどのくらい付くのかや、投資家がどれぐらい GB に関心を持っているのかなども見ながら金額を決めていくことになる。

--「恐竜bond」について

岸本副部長：8 月に 5 年債で 14 億円、利率 1.164% で発行した。もともと 10 億円で予定していたが、想定を超える問い合わせがあったと聞き、証券会社とも相談して 14 億円に増やした。それでもすぐに予約で完売だったと聞いている。我々の想定以上に大きな反響があった。

今年の 4 月に県立大の恐竜学部 1 期生が入学し、全国初の学部に対して入試の倍率も高かった。それを勝ち抜いた本当に志の高い優秀な学生が集まった。恐竜学だけではなくて、地質や環境、古生物といった自然科学全般を学べる学部。今後、勝山キャンパス（勝山市）周辺地域の発展にも貢献できる学部であり、県としても期待している。1 年生は今、永平寺キャンパス（永平寺町）で学んでいるが、2 年生から恐竜博物館の隣接地の勝山キャンパスで学ぶことになる。ちょうど今建設しているところだ。その恐竜学部棟の建設費にこの「福井県立大学恐竜学部応援bond」の調達資金を充てる。

初年度の入試はかなりの倍率だったので、ぜひ、次年度以降もしっかり全国に発信して、優秀な学生を確保していきたいといった思いで発行した。特定事業

の個人向け債はあまり例がなかったので、証券会社と相談し、どれぐらいの規模で発行できるものなのか、売れるのかとは思っていた。14億円の発行に成功し全国に発信でき、好評を得た。学部棟の建設費が今のところ32億円程度予定していて、今年度は28億円、昨年度は4億円。今年度の28億円の半分に相当する14億円を「応援ボンド」で賄った。

--販売先は何件だったのか

岸本副部長：個人が県内で255件、県外で117件。法人は県内が27件、県外が5件。全国で買えるような形にはしていたが、発信はどちらかという県内中心だった。それでも全国から応援してもらえた。

■恐竜博物館の隣

--恐竜学部について

海道部長：福井県は30年以上にわたって恐竜の化石の発掘や研究を継続している。また、県の南の方に「年縞」の博物館と水月湖がある。北の方に東尋坊などが観光の名所になっているが、日本列島の形成史を物語るような地質遺産であって地球の歴史を知ることが可能となっている。こうした恵まれた環境を生かして、日本初となる恐竜学部を設置することになった。

世界の学術研究拠点として人材育成や研究を進めていき、我が国のオンリーワン・ナンバーワンの学部として、「恐竜王国福井」と言われているが、そのブランド力の向上を狙っている。6年間の計画を策定し、そのなかで新しい学部、古生物関係の新学部を構想し、2022年2月に古生物関係の学部を作ることを発表した。そして昨年3月に文部科学省に設置認可申請を出し、8月に認可をもらい、今年4月に開設に至った。

学部名称は恐竜学部で、学科は1つで恐竜・地質学科。入学定員は30人。教員は20人体制で、今年度はまずは14人で、来年新しく6人が着任する予定となっている。取得できる学位は学士の理学。3年生になってから、「恐竜・古生物コース」と「地質・古環境コース」という2つのコースに分かれ、専門応用科目を学ぶ。「恐竜・古生物コース」では、恐竜などの脊椎動物から微古生物まで、生態や分布などを広く学ぶ。「地質・古環境コース」では、地層や海底の堆積物を分析することを通して、古環境を推定するといった勉強をする。また、災害や防災などに関する授業も行う。

■CTで化石分析

--4年間のカリキュラムは

海道部長：すでに第1期生が4月から入っていて、永平寺キャンパスで一般教育を学んで専門の基礎も6つぐらい受講することになっている。2年生になったら、今建設中の勝山キャンパスに移り、専門の基礎や調査研究手法の基礎などを学んで、3年生になったらより高度な専門知識と技術を学ぶ。4年生になると卒業研究を行って卒業論文の作成をすることになる。カリキュラムのなかで測量士補は専門の授業を履修することで取得できる。また、所定の単位を習得することで理科の高校教員の一種免許または学芸員の免許を取ることも可能になっている。



学部大きな特色としては、恐竜博物館との連携が挙げられる。博物館の隣にキャンパスを設けたのも、ここの連携を密にやっていくことを狙っている。博物館にある施設や研究機器を使ったり、博物館にないものを学部準備するので、それを博物館の研究者が使ったり、ということで、相互に施設を利用して行く。それから、博物館の研究者や学芸員に恐竜学部の授業の専門科目を持ってもらうということで、人的資源も共有する。また、博物館のなかに恐竜学部オープンラボという学部の専用のスペースも設けている。

2番目の特色としているのがフィールド科学の実践。福井県には古生代から新生代までの地質遺産が数多く分布している。勝山市北谷の発掘現場、それから東尋坊や三方五湖などに出かけ、そこでの活動を通して地層や岩石に記録されている情報を読み解いて論理的に考察する力を養う。実践的なスキルを習得できるようなカリキュラムを用意している。

特色の3番目はデジタル技術を活用した新分野の展開。従来行われてきたアナログな研究手法だけではなく、最新のデジタル技術を活用して教育や研究を行う。大型CT機器を導入し、破壊せずに化石の内部構造や表面の構造を分析したり、また、3Dの情報を得ることで、そうしたデータを活用した教育や研究を行っていく。

国際化はどこの大学でも言われているが、本学部においても世界的な恐竜研究センターを目指している。先端的な研究の推進と国際的な感覚の養成を目指していく。具体的には3年生のときに海外発掘実習を専門科目に入れており、まずはタイでの実施を計画しているが、その後、米国やカナダでもできないか検討中だ。また、世界的に有名な人を学部開設に合わせて客員教授として委嘱した。この人たちに授業をしてもらったり、研究を一緒にやっていく。それらを通して専門的な知識を深めたり、語学力やコミュニケーション能力を向上させることを目指す。

今年の9月26～28日、福井県立大学の永平寺キャンパスを会場にしてアジア恐竜国際シンポジウムを開催した。恐竜博物館でも27～28日に一般の方を対象に、これに合わせたイベントも開催した。この国際学会などには学生も参加しており、研究の成果発表を英語だけでやったが、そういった催しも通して国際的な感覚を身につけてもらいたい。

特色3 デジタル技術を活用した新分野の展開

- 従来行われてきた古生物および地質学調査研究を行うだけではなく、最新のデジタル技術を活用し、古生物・地質学をさらに発展させていく。
- 大型CT撮影装置をはじめとした機器を使用して、多様な形や大きさの化石や地形をデジタル化し、それらのデータを活用した新しい教育・研究を行う。



※文科省から「全学数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」の認定を受け、全学的に、一般教育科目のなかで、数理・データサイエンス・AIを活用・応用できる能力、現実の課題を解決する為の実践的な能力を育成

--卒業後の進路・就職は

海道部長：恐竜を勉強すると当然、地質についてや、化石がどこで取れるか、いつの化石かといったことも学ぶことになるので、博物館の研究者や学芸員などは当然想定されるが、地質学を学んだことを生かした職業として、地質土木、建設産業だとか、環境アセスメント産業、ジオパークなどの観光業、そういったものも進路として考えている。また、デジタル機器を使った研究を進めるのでデジタル技術が身につく。そこで IT 関連の産業なども就職先として考えている。なるべく県内に就職してもらって、恐竜のイベントに参加したり、生涯にわたって恐竜を楽しみとして生きてもらえたら良い。学部生には卒業して福井に残って、職業は直接恐竜に結びつかなくても、楽しみながら活躍してもらいたい。

資料の出典：福井県（2025年10月）

[2025/10/23 聞き手：キャピタルアイ・ニュース 菊地 健之]